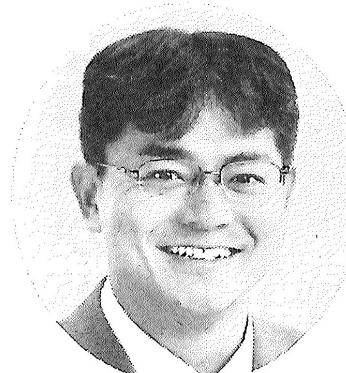


見通し甘い学校統廃合やめよ

大阪市議会教育こども委 井上市議が指摘



井上浩市議

12日の教育こども委員

会で、井上浩議員は学校
統廃合問題と、ひとり親
への支援について質問し
ました。

統廃合を行った小学校
で、統廃合後に児童数が
増加し、教室不足が生じ
たために校舎の増築を行
った学校は、1989年

から2020年度までに
開平(中央区)、中央
(同)、扇町(北区)、塩草
立葉(浪速区)の4小学校
です。

2014年度に塩草、
立葉西小学校を統合した
塩草立葉小学校について

て、統合後わずか4年で
校舎の増築が必要になつ
ただけでなく、今後も児
童数が増え、校舎の増築
で運動場が狭くなるな
ど、学校再編の見通しの
甘さを指摘しました。

生野区では、小学校単
位で行われている生涯学

習ルーム事業と学校体育
施設開放事業で、学校統
廃合で影響を受ける地域
の利用者は、延べ約3万
人に対応として、地域活
動の衰退につながると批
判しました。

井上氏は、大阪市のよ
うに、学校統廃合を決め
る基準を定めた条例改定
を行っているのは他都市
ではなく、「教育の条理
に反する。本来の教育の
立場に立つべき」と力説
しました。

(2021年3月28日付大阪民主新報)

井上氏は、市は民間団
体と連携して、ひとり親
家庭などの自立支援に関
係するパートナーを募集
しているが、現在6件で
少ないと指摘。施策の周
知とともに、市独自の生
活支援の充実を求めま
した。